

入学前教育プログラム レポート課題について

関西学院大学総合政策学部

2019年12月6日

1. 概要

次の課題1～課題3で最も興味を持ったものを1つ選び、指示に従ってレポートを作成し、提出してください。
課題に必要な文献は原則、購入いただくか図書館で借りていただくこととなりますが、購入に際しては紙媒体ほか適宜、電子媒体(kindle等)も利用してください。

2. 作成について

総合政策学部ホームページ内「総合政策学部入学前教育プログラム(2020年4月入学生用)」ページ(以下、入学前課題プログラム HP)に掲出している課題毎のレポート用紙(ワード形式)をダウンロードし、直接入力した上で印刷物を提出してください。(手書きは不可。)

<注意点>

- レポート作成の際、自分の意見と資料の引用内容を明確に区別して記述するよう留意してください。文献の引用・参照のルールは多様です。入学前課題プログラム HP 内、<参考資料>に掲出している『基礎演習ハンドブック(P.38-43)<第2章 レポート・論文の書き方入門>』『[サンプル論文]どうすればよい論文になるのか?』に準じて作成してください。
- レポートや論文を作成する際、他人が書いた文章を『^{ひようまつ}剽窃』することは絶対にしてはいけません。万が一、剽窃をしたことが発覚した場合は学部から指導を行います。

剽窃とは、他の人によって書かれた論文、概念、文章等の著作の一部または全部を、あたかも自分自身が書いたものとして使用すること。あるいは、自分が書いたものと読んだ人に誤解を与えるように標記して「使用」すること。

- レポートは「です・ます」体ではなく、「である」体で執筆し、同級生でも理解できるような平易な文となるよう心掛けてください。

3. 提出について

提出締切:2020年4月1日(水)入学式に持参。

提出方法:レポート用紙(ワード形式)に直接入力したデータを、A4サイズの用紙に両面印刷し、左上を1ヵ所ホッチキスで止めて提出してください。

連絡事項:①提出されたレポートは入学後に採点し、優秀なレポートは学内のWEB掲示板を使って氏名やレポート等を公開します。

②後日作成されたレポートデータの提出を求める場合があります。2020年9月18日(金)まではデータを必ず保存しておいてください。

4. 問い合わせ先

関西学院大学 総合政策学部事務室 電話番号:079-565-7601

開室時間:(平日)8:50-11:30 12:30-16:50 (土曜)8:50-12:20 (日曜・祝日)休み

※12月24日(火)～1月5日(日)、2月1日(土)～2月7日(金)は窓口業務を休止します。

●課題1

以下の文献①～④を熟読の上、各設問に答えてください。

文献① Kissinger, Henry. *World order: Reflections of the character of nations and the course of history*. New York: Penguin, 2015.

文献② World Bank. *High-performance financing for universal health coverage*. Washington D. C.: World Bank, 2019.

https://www.mof.go.jp/english/international_policy/convention/g20/annex8_2.pdf

文献③ UNICEF. “Are the world’s richest countries family friendly? Policy in the OECD and EU”, 2019.

<https://www.unicef.org/media/55696/file/Familyfriendly%20policies%20research%202019.pdf>

文献④伊藤修一郎『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会、2011年。

(設問1)

1. 文献①の著者である Henry Kissinger とは、どのような人物であったかについて、以下の【参考にする文献例】と独自に探した論文を参考にしながら 500 字程度で説明しなさい。説明に際しては、キッシンジャーの学術面でのキャリアと政府高官としてのキャリアを分けて整理するようにしなさい。なお本設問に関しては、**Wikipedia** を利用せず、以下【参考にする文献例】に挙げた文献、及び入学前課題プログラム HP 内、<課題1に関する資料>『①論文検索の方法』を参考にして調べた論文をもとにしながら課題に取り組みなさい。

【参考にする文献例】

ヘンリー・A・キッシンジャー(岡崎久彦監訳)『外交 上・下』日本経済新聞社、1996年。

ニール・ファーガソン(村井章子訳)『キッシンジャー 1923-1968 理想主義者 1』日経 BP、2019年。

※上記の図書を必ず入手する必要はありません。論文資料で十分な場合には、入手可能な資料の範囲で執筆しなさい。

2. 文献①では、以下のような地域の区分に従って、歴史的経緯、現状分析、将来的な展望がまとめられています。

- ・ 1-2 章:ヨーロッパ
- ・ 3-4 章:中東
- ・ 5-6 章:アジア
- ・ 7-8 章:アメリカ

これらの中から地域を 1 つ選び、1. 歴史的経緯(400 字程度)、2. 現状分析(400 字程度)、3. 将来的な展望(400 字程度)として、それぞれ内容を要約しなさい。

(設問2)

文献②の「Part1. Time to Act」を一読しなさい。同パートの中には、いくつかの公衆衛生に関するトピックが含まれています。関心を持ったトピックを 1 つ選択し、そこで述べられている問題の概要について、まずは日本語 500 字程度で簡潔に説明しなさい。

(設問3)

(設問2)で選択したトピックについて、あなたが独自に研究を進めるとします。そのトピックについて、文献④の第1章から第4章をもとに、入学前課題プログラム HP 内、<課題1に関する資料>『②研究計画例』の書式を参考にレポートないしは論文を書くための研究計画 (research design) を考えてA4 2枚(両面1枚)程度にまとめなさい。なお、研究計画を作成するためのワークシートは入学前課題プログラム HP 内、<課題1に関する資料>『③研究計画作成のためのワークシート』にあるので、補助的な教材として適宜利用しなさい。

(設問4)

文献③をもとに、「日本における男性の育児休業の取得状況に関する分析」というタイトルで、以下【レポートの構成例①・②】を参考にしながら、4,000字～5,000字のレポートを書きなさい。レポートの執筆に際しては、日本語や英語の文献・資料を7点以上利用しなさい。文献の検索方法は入学前課題プログラム HP 内、<課題1に関する資料>『①論文検索の方法』を参考にし、その検索方法の範囲で入手できる資料と官公庁等による報告書・統計のみを利用するようにしなさい。なお、レポートの構成例に疑問がある場合、構成が適切でないと思う場合は自由に構成を設定し、作成してもかまいません。

【レポートの構成例①】

研究の問い:日本における育児休業制度は、どのように変化してきたのか。その過程で男性の育児休業制度は、どのように拡充されてきたのか。

- 1 はじめに (字数例:500字)
- 2 育児休業制度をめぐる論点の整理 (1,200字)
 - 2.1 日本における育児休業制度の概要
 - 2.2 育児休業制度に関する先行研究の整理
 - 2.3 日本における育児休業制度の問題点の提示
- 3 日本における育児休業制度をめぐる歴史的経緯 (1,800字)
 - 3.1 育児休業制度の制定と制度の変遷
 - 3.2 育児休業制度の転換点—男性にも手厚い育児休業制度がなぜ整備されたのか
 - 3.3 制度による保障と取得率の乖離に関する考察
- 4 結論 (500字)

【レポートの構成例②】

研究の問い:なぜ、他の国に比べて日本における男性の育児休業は長期間にわたって保証されているにもかかわらず、男性の育児休業の取得率は低いのか。

- 1 はじめに (500字)
- 2 日本における育児休業制度の概要と国際比較 (1,000字)
 - 2.1 日本における育児休業制度の概要
 - 2.2 育児休業制度に関する先行研究の整理
 - 2.3 仮説の設定: XX による育児休業取得の促進

- 3 事例分析—A 国(※1)と日本における男性の育児休業制度の比較 (3,000 字)
 - 3.1 事例 1:A 国における男性の育児休業制度と運用実態の検討
 - 3.2 事例 2:日本における大生の育児休業制度と運用実態の検討
 - 3.3 分析:XX(※2)は育児休業制度を促すのか?
- 4 結論 (500 字)

※1:A 国とは、例えば、韓国、フィンランドといったように、日本以外のある特定の国を指します。

「どの国の事例を、日本の事例と対照させて考えるとよいか」という観点から事例を選択してください。仮に“日本がうまくいっていない事例”と考えるなら、“うまくいっている国はどこか(事例は何か)”,と考えることで事例選択をするとよいかもかもしれません。

※2:XX には何らかの要因が入ることになるでしょう(例:企業の昇進制度;福祉国家の在り方等)。

先行研究をよく踏まえた上で、どのような要因が、「日本においては男性の育児休業が制度上保証されているにもかかわらず、取得率が低い状態を説明できるのか」ということを検討することになると思います。

●課題1 以上

●課題2

以下の文献①～③を熟読の上、各設問に答えてください。

文献① 杉本裕明『ルポにっぽんのごみ』岩波新書、2015年。

文献② 藤井誠一郎『ごみ収集という仕事: 清掃車に乗って考えた地方自治』コモンズ、2018年。

文献③ 広瀬立成『科学で考えるごみゼロの未来』オモイカネブックス、2018年。

(設問1)

ごみゼロ社会を建設することの必要性を、エントロピー増大の法則を用いて400字程度で説明しなさい。

(設問2)

資源ごみのリサイクルが進んでいるかどうか、文献①の内容を参考にしながら根拠を付して600字程度で評価しなさい。

(設問3)

あなたが居住している自治体における以下のデータを収集し、A4 2枚(両面1枚)にまとめなさい。

なお、解答方法は自由記述とし、別紙(新聞やウェブサイト等)を貼付しても構いません。

- (ア) ごみ処分量とごみの処理費用(総額または市民ひとりあたり)
- (イ) 分別収集ルール
- (ウ) ゴみの収集体制(誰が回収し、誰が焼却し、最終処分をどうしているか)
- (エ) ごみゼロに向けた取り組み

(設問4)

日本のごみ問題のうち最も重要な課題は何か、そしてどのようにそれを解決すべきか、最も重要な課題を選んだ根拠を示しながらあなたの考えを5,000字程度で述べなさい。

●課題2 以上

●課題3

以下の文献①～④を熟読の上、各設問に答えてください。

文献① 竹内淳『高校数学でわかる統計学』講談社、2012年。

文献② 学研プラス『500円でわかるエクセル2016』学研マーケティング、2016年。

※利用するパソコンにインストールされているExcelのバージョンが「2013」の場合は『500円でわかるエクセル2013』を購入してください。なお、ご自身の使用しているExcelのバージョンは、Excel画面上の「ファイル」⇒「アカウント」あるいは「ヘルプ」⇒「Excelのバージョン情報」により確認できます。

文献③ 中屋敷均『科学と非科学 その正体を探る』講談社現代新書、2019年。

文献④ 中室牧子『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2015年。

(設問1)

文献①の本を熟読の上、「回帰分析」とは何か、どのような用途に用いられるか100～200字で説明しなさい。その際、以下のキーワードを最低一回ずつ利用し、その都度、アンダーラインを施しなさい。

キーワード: 近似、最小二乗法、残差

※文献①だけで対応できない場合、「数学B」の教科書や結城浩『数学ガールの秘密のノート: やさしい統計』SB Creative、2016年を参考にしなさい。

(設問2)

文献①の第1章から第3章と文献②を熟読し、表計算ソフトのExcelも用いて、以下の1.～5.に答えなさい。なお、1.～4.は入学前課題プログラムHP内、<課題3に関する資料>の「(設問2)1.～4.回答例」を参照しながらExcelでの作業の結果が全て示されたページをA4片面1枚に印刷しなさい。

1. 「総合政策学部入学前教育プログラム(2020年4月入学生用)」内、<課題3に関する資料>の「データセット」をダウンロードし「一人当たりGDP」と「一人当たりGDP(対数値)」、「平均寿命」について与えられたデータの平均値、標準偏差、最小値、最大値をそれぞれ求めなさい。平均値AVERAGE関数、標準偏差はSTDEV関数、最小値はMIN関数、最大値はMAX関数を利用すること。

※Excel2016の場合、Excel関数については文献②の64～76ページを参考にしなさい。

2. 以下の手順でExcelにより「平均寿命」と「一人当たりGDP」についての散布図を作成し、グラフに回帰式と決定係数(R^2)を表示させなさい。尚、縦軸を「平均寿命」、横軸を「一人当たりGDP」とすること。

※Excel2016の場合、文献②の86ページ以降を参考にすれば、以下の手順で作成できます。

1: 「挿入」⇒リボンにある「グラフ」のボタンをクリックし散布図を作成。

2: 散布図のドットを右クリックして、「近似曲線の追加」を選択し、「対数近似」にチェックした上で、「グラフに数式を表示する」と「グラフに R^2 乗値を表示する」をチェック。

3. 2.と同様の手順で「平均寿命」と「一人当たりGDP(対数値)」についての散布図を作成し、グラフに回帰式と決定係数(R^2)を表示させなさい。ただし、この散布図では「近似曲線の追加」から「線形近似」にチェックを入れるようにしなさい。尚、縦軸を「平均寿命」、横軸を「一人当たりGDP(対数値)」とすること。

4. 文献①の3章を参考に、Excel を用いて説明変数(X)を「一人当たりGDP(対数値)」、被説明変数(Y)を「平均寿命」とした回帰式(回帰直線)の傾き(a)と切片(b)および決定係数(R^2)を算出なさい。
5. 以上の設問から、平均寿命と一人当たりGDPの間には右上がり関係があることを確認できる。一人当たりGDPは国の豊かさを測る代表的な指標の1つである。したがって、回帰分析の結果は経済的に豊かな国でより平均寿命が長い傾向にあることを示唆している。この傾向を支える要因として、どのようなものが考えられるか100～200 字で説明なさい。

(設問3)

文献③と④を熟読の上、「原因と結果の関係を科学的に示すこと」というタイトルで、2,000～3,000字の小論文を書きなさい。より詳しく調べたい場合には、例えば「中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社、2017年」、「伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社、2017年」等を参考にしてください。

●課題3 以上

以上